

まちのキラリ



上保原ソフトボールスポーツ少年団

ついに迎えたオリンピックキヤー。本県は野球・ソフトボール競技の会場となっていて。日に日に盛り上がりが増していく中、上保原ソフトボールスポーツ少年団は、昨年、結成40周年を迎えました。

監督の高橋秀明さんは「たくさんの人が関わって活動を続けてきたことに、積み重ねてきたものの重みを感じます。子どもたちの向上心を培う場のひとつとして、地域になくはならないチームです。」と歴史を振り返ります。

「チームカラーを変えると同時に、女子に対して競技の間口を広げたいという思いがありました」と話す高橋監督。1月に発足した新チームのキャプテンには、チーム初の女子部員である霜山琴璃ことりさんを任命しました。

チームを束ねることに



新キャプテンの霜山さん（左）と前キャプテンの鈴木さん（右）

なった霜山さん。練習では人一倍大きな声を出し、部員たちの士気を高めます。「部員をまとめる大変さはありませんが、みんなで協力してがんばっています。打撃も守備もチームプレイで戦えるチームにしたいです。」と奮闘ぶりを語ります。

新チームに対して「地区大会優勝を目指してがんばってほしい」と話す、前キャプテンの鈴木蓮れんさん。「僕はこのチームで、勝利の喜びと練習して上達することの楽しさを学びました。みんなもきっと強いチームになれると信じています。」と後輩たちにエールを送りました。